

1. 本園の教育目標

遊びだいすき、友だちだいすき

2. 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標をもとに設定した学校評価の具体的な目標や計画

努力目標…「楽しそう!やってみよう!」

～子供達が自分の思いを表現し、満足感を味わえるような造形遊びについて考える～

3. 評価項目の達成および取組状況

評価項目	結果	理由
(1)努力目標を達成するため、意欲的に表現活動を楽しめるような造形活動に取り組む	A	研究保育や日々の教材研究において、職員間で様々なアイデアを出し合うことで、子供がやってみようと思う題材を考えることができた。子供が意欲的に表現する姿が増え、「次もやりたい」という意欲につながった。
(2)長期的な見通しを持って保育をすすめる	B	年度当初に年間を見通し保育内容を具体的に計画したことで、発達や時期にあわせて、保育内容を充実することができた。一年を振り返り、足りなかった領域について再度検討し、次年度の子供の育ちにつなげていく。
(3)特別支援教育の充実を図る	B	多様化する子供の姿や育ちを丁寧に記録し、支援の方法を職員間で検討することができた。巡回指導等でいただいたアドバイスや支援の方法をその子供に関わる保育者にしっかりと伝え、共通理解し、よりよい支援を継続していきたい。

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

結果	理由
B	今年度は感染対策をとりつつも、通常の保育が行えるように、保育内容を検討し、すすめてきた。そのため、一人ひとりが様々な活動を経験し、自分でできることが増え、友達と一緒に過ごす楽しさを感じる子供が増えてきた。造形活動の中ではのびのびと表現する姿も増えた。しかし、友達のことへの関心が薄い子供もおり、うまく言葉で伝えられなかったり、友達に向き合えなかったりする姿がある。今後は、様々な場面で友達の良さに気づき、自分から声をかけることができる関係づくりが必要である。

◎「3.4.」の評価結果の表示方法 A 十分達成されている

B 達成されている

C 取り組まれているが、成果は十分でない D 取り組みが不十分である

5. 今後取り組むべき課題

課題	具体的取り組み方法
1. 友達や保育者とのつながりを大切にする保育を考える	ふれあい遊びやつながり遊びなどを計画的に取り入れたり、子供の実態に合わせて、子供同士のつながりが広がるように遊びの環境を設定したりして、保育をすすめていく。
2. 特別支援教育において計画的な支援が継続できる方法を探る	定期的に子供のことについて話し合う機会をもち、連携機関よりいただいたアドバイスを取り入れ、子供に適した支援を継続して行っていく。